

# 2&4 2022 GHMPチャンピオンズシリーズ モトクラス開催内容について

## 1. 開催日程

Rd.2 8月21日(日) Rd.3 12月11日(日)

## 2. クラス分け

① モトAクラス 2輪400cc以上 ・ ② モトBクラス 2輪399cc以下

## 3. 走行内容

公式練習、予選タイムトライアル、決勝(10周)

決勝レースグリッドは予選のベストタイム順とする。

レーススタート前は2周のウォームアップ走行を行う。

決勝のスタート方式はスターティングスタート。メインストレート上の信号機を合図に10周のレースを行う。

## 4. モトクラス共通車両規定 (2022年シリーズは推奨項目とする)

- ブレーキは、前・後輪それぞれに独立した有効なブレーキを備えていなければならない。
- ハンドルは、回転角度を左右一杯まで切った時に、選手の指を挟まないようにハンドルと燃料タンクに間隔を確保しなければならない。バーエンドは、丸められた形状もしくは覆われていること。
- ブレーキ、クラッチレバー先端は丸められているものとする。折れているレバーの仕様は不可。折りたたみ式でないステップバーの先端は半径8ミリ以上の丸形状にする事
- ステアリングダンパーの取り付けは可とする。ただし、ステアリングストッパー兼用は認められない。
- メインスイッチやハンドルスイッチの改造・変更は可とする。ただし、いかなる場合においても確実に作動するキルスイッチを取り付けなければならない。
- スロットルは、手を離すと戻る方式でなければならず、アクセルワイヤーおよびオイルポンプワイヤーの改造・変更は可とする。尚、ハイスロットルの使用は、手を離すと戻る方式のものであれば認められる。
- ラジエターを装着しているすべての車両の冷却水に関しては、水及び冷却補助液のみとし、クーラントの使用を禁止する。キャッチタンクを転倒時に影響が無い位置に取り付けることが望ましい。

7. 燃料タンクは、容易に車体から外れることが無いように装着すること。また、ブリーザーホース付き車両は必ずキャッチタンク（100cc 以上）を取り付けなければならない。ただし逆流防止弁付きブリーザーホースを付けていればキャッチタンクの装着の必要はない。
8. 4 サイクルエンジンを使用する車両は、オイルキャッチタンクを設けなければならない。尚、容量は 200cc 以上とし、ブローバイガスは吸気循環方式とすること。エアクリーナーBOX がキャッチタンクでも可。
9. 始動構造および分離給油用オイルポンプそれらの関連部品の取り外しは可とするが、取り外し後の処理はブラインドキャップなどで確実にを行うこと。
10. オイルドレインボルトおよびオイル注入口（エンジンまたはミッションオイル）のキャップは、ワイヤーロック等の緩み防止処置を行うこと。またアンダーカウルの装着を強く推奨とする。
11. エキゾーストマフラー/チャンバーの変更は可とする。消音効果のあるサイレンサーを取り付けなければならない。排気音量は当社測定方法で 95db を超えていてはならない。
12. ゼッケンは車両のフロント及びサイドに装着する事とし、視認性が担保されればテーピングによるものでも可とするが、テーピングでのゼッケンは旗振りからみて視認しやすい形状とする。灯火類は取り外す事。
13. バックミラー、スタンド、リアキャリアなどは取り外さなければならない。取り外しが困難なサイドスタンドはワイヤリングかタイラップ固定によりしっかりと処理を行うこと。
14. チェーンカバーの装着は推奨、スプロケットカバーは安全上取付を行うこと。
15. アクスルシャフト（フロント、リアともに）の固定にはロックナットもしくはワイヤリングを使用すること。
16. その他、主催者ならびに車検員が、安全面における処置を求めた場合、その指示に従うこと。  
※煙を吐いている車両は車検および走行中にスタッフの判断にて走行不可とする場合があります。

## 5. ドライバーの方の装備品について（必須項目）

1. フルフェイスのヘルメットを着用すること。
2. レーシンググローブ(革製のプロテクター付)を着用すること。
3. レーシングスーツ(革製のプロテクター効果のあるもの)を着用すること。
4. レーシングブーツ(革製)を着用すること。
5. 右記の装備を推奨とする。ヘルメットリムーバー、脊椎パッド、胸椎パッド、ネックブレース、エアバッグ